

〔箋注倭名類聚抄^婦〕按說文壻夫也。从土胥。段玉裁曰。夫者丈夫也。然則壻爲男子之美稱。因以爲女夫之稱。新撰字鏡。壻訓毛古。按无古蓋匹敵子之義。猶訓嫡爲无加比女也。

〔伊呂波字類抄^{人倫}〕^无壻^ム亦作^コ壻。子之夫爲壻。

〔倭訓栞^{前編}三十一〕^牟むこ 壻をいふ。壻も同じ。めすこなるべし。めす反む也。めすは聘也。こは子也。

新撰字鏡にも。こともかきともよめり。むこぎみといふ詞。物語類に多し。古事記に壻夫をよみたり。爾雅に。女子謂姊妹之夫爲私孫。炎註に。謂无正親也。と見ゆ。和名鈔同じ。

〔倭訓栞^{中編}十七〕^那なからむすこ 婿をいふ。半子の義によれり。

〔日本釋名^中人品〕壻 むつましき事。子のごとし。つましを略す。からの書に。むこを半子といへるがごとし。

〔萍の跡〕娶 婚 嫁

男を壻といふは。女の父母よりよぶ名にて。わが女に對るよしもて。向^カ子の中略ならむか。又女をよめといふも。男の父母よりよぶ名にて。淑女のよしなるべし。僧慈延が隣女晤言にいへるは。いづれもおだやかならず。

〔釋親考〕女子子之夫爲壻。壻之父爲姻。婦之父爲婚。

邢氏曰。廣雅云。壻謂之倩。方言云。東齊之間。壻謂之倩。白虎通云。婚姻者何。謂昏時行禮。故曰婚。婦人因

夫而成。故曰姻。唐書回紇傳。可汗上書。言昔爲兄弟。今婿半子也。陛下若患西戎。子請以兵除之。

胤按。後世壻稱半子。蓋本于此。婦翁與壻書。或稱賢坦英坦。皆用王羲之東牀坦腹之事。尤僻。皆非正名也。

〔古事記^上〕於是火遠理命思其初事。而大一歎。故豐玉毘賣命聞其歎。以白其父言。○^中其父大神問其聲。夫曰。○^下略